

「また来たい」 「もっと知りたい」 首都圏の大学生がつがる市に「移住体験」

昨年11月23日から25日、2泊3日の日程で「大学生移住体験ツアー」が行われ、首都圏の学生がつがる市の魅力を味わいました。



森田町の古民家で郷土料理「すしこ」の調理を体験する参加者。甘酸っぱいモチ米に少々戸惑いながらも「慣れるとおいしいね」

ツアーは、地方の生活に興味がある大学生につがる市での生活体験をしてもらい、将来的に市への移住を検討してもらおうと、市が初めて開催。30件以上の問い合わせがあり、日本大学や東洋大学など4大学から8人を招待しました。

参加者は、木造商店街のまち歩きで空き店舗の状況などを視察したほか、リンゴの収穫や郷土料理の調理などを体験し



生産者と一緒にリンゴの収穫を体験

ながら地域住民と交流。高山稲荷神社など「インスタ映え」で注目を集める観光地も散策しました。

最終日は、2日間の体験をもとに、市の活性化を考えるワークショップを開催。「人柄が温かい」「食べ物おいしい」「津軽弁がかわいい」といった魅力が挙げられた一方、「交通の便が悪い」、「若者が少ない」、「市の認知度が低い」などの課題が挙げられました。いろいろな意見が出る中で学生は、地域活性化案としてSNSによる発信力の強化を提案。ハッシュタグ「#つがるさこいへ」を合言葉に、行政と市民、市を訪れた人が一体となってPRしていくことが必要だとしました。

参加した学生は「すぐに移住とはいかないが、また来たいと思うまち。ツアーなどを続けて交流人口を増やすことで、将来的に移住者が増えると思う」と感想を残しました。



商店街の人々とふれあう学生たち



まちの活性化を考えたワークショップ

つがる市消防団出初め式 「地域を守る」士気高らかに



福島市長らによる規律厳正な服装点検



勇壮な分列行進



行進を盛り上げるラッパ隊

新春恒例の「つがる市消防団出初め式」が1月6日、市役所周辺で開催されました。

真冬日となったこの日、出初め式には56分団約960人の消防団員と79台の消防車両が参加。寒風が吹きつける中、福島市長らによる服装点検を受けた団員らは、ラッパ隊の演奏に合わせた勇壮な分列行進を披露し、地域を災害から守る士気を高めました。

続いて松の館で行われた式典では、福島市長が「自然災害の多発を背景に消防団員の重要性は高まっている。市民が安心して暮らせるまちの構築に向け、一層のご活躍を期待します」と団員らを激励。続いて箱田鐵雄消防団長が「普段から最善の準備をして火災の減少に努めてください」と訓示を述べました。表彰では、日頃の火災予防活動に加え農産物の夜間パトロールに取り組んだ森田第七分団（猫淵）と、県消防操法大会出場にあたり訓練に励んだ車力地区13人の団員に団長表彰、勤続30年以上の勇退団員に福島市長から感謝状が贈呈されました。

また、出初め式に先立ち、福島市長と箱田消防団長ら消防団幹部が、三新田神社で今年一年の無火災を祈願しました。

つがる市長職務執行者 古坂 英氏 訃報のお知らせ

旧柏村長を昭和55年から平成17年までの7期25年にわたって務め、つがる市誕生後も市長職務執行者としてご尽力された古坂英氏が、1月5日ご逝去されました。長年の功績に対して深く感謝申し上げますとともに、衷心より哀悼の意を表します。

■主な経歴

昭和55年1月から平成17年2月10日まで柏村長7期25年、平成17年2月11日から同年3月13日までつがる市長職務執行者をはじめ、西津軽町村会会長、柏村農業協同組合長などを歴任しました。

■主な受賞

平成17年 市町村合併功労者総務大臣表彰
平成18年 旭日小綬章

